

## 学習船「うみのこ」 新船建造について

### 1. これまでの経緯

びわ湖フローティングスクールは、学校教育の一環として、県内小学校5年生を対象に、母なる湖・琵琶湖を舞台にして、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験型の教育を展開し、環境に主体的にかかわる力や人と豊かにかかわる力を育むことを教育方針として事業を展開してきた。

昭和58年8月の就航以来、49万人を超える子どもたちが乗船し、「母なる琵琶湖と直接触れ合う環境学習」や1泊2日の「船ならではの体験」を通して、様々な感動を味わっている。

この学習船「うみのこ」は、就航から31年が経過し、船内配管など老朽化が進んでいる。

新船の建造に向けては、平成20年3月に滋賀県学習船建造基金条例を制定し、建造基金を積み立ててきた。

平成29年度の新船就航を目指して、今年度は、学習船建造の概略設計、基本設計、現船の有姿評価を実施している。

### 2. 新船の建造について

#### (1) 新船のコンセプト

ア 琵琶湖をフィールドにした体験学習、環境学習のシンボル

イ 新たな視点を取り入れた学習ができる船

(ア) 探求的な学びの場としての学習船

(イ) 集団宿泊を通して共同意識を高める学習船

ウ 新たな機能をもった学習船

(ア) 子どもの安全安心を保障する船

ユニバーサルデザインの採用、強風対策として喫水を深くする など

(イ) 環境負荷の少ない船

CO<sub>2</sub>やNO<sub>x</sub>などの排出が削減される動力システムなど、エコシップ

(ウ) 災害時に活用できる船

飲料水や食料等を運搬できるスペースの確保、被災者支援、臨時災害対策本部 など

#### (2) 船の諸元 (平成26年11月28日現在)

項目	現 船	新 船
全 長	65m	66m
幅	12m	12m
満水喫水	1m	1.5m
総トン数	928 t	1,200 t
動力システム	ディーゼルエンジン 主機と補機	ディーゼルエンジン 電気推進方式
定員 (大人)	33 人	36 人
定員 (小人)	240 人	160 人

### 3. 現船の取扱い

(1) 現状調査の結果、現船は船殻以外の全ての機器を換装する必要があるとされ、24億円の建造費が必要なことや、工事に11箇月の期間を要し、乗船できない小学5年生がでるなど影響が大きいことなどから、引き続き県の学習船として使用することはできない。

現船を係留して県として他の用途に活用する可能性については、評価結果も参考に、知事部局の関係課を含めたびわ湖フローティングスクール新船建造協議会において検討する予定。

参考：主機関および発電機器、電気設備、配管、その他必要な機器等の換装を行う場合の  
工事費用ならびに工事期間 工事費用約24.1億円、工事期間約11箇月

#### (2) コンサルタントによる現船の有姿評価結果

項目	金額(千円)	備考
船の評価額	0	琵琶湖内での使用に限定され、転用困難のため
解体撤去費用	約117,000	スクラップ買取価格約12,000千円を含む 解体経費のみでは約129,000千円
現船を係留して活用する経費	約121,000	年額。船舶としての人件費、検査修繕費が必要となる。

### 4. 今後のスケジュール

平成26年度末まで更に設計を進め、平成27年度と平成28年度の2か年で建造し、平成29年4月の就航を目指したい。